長時間保育の実践

かっこう幼稚園・認定こども園にじいろ

【研究副主題】　『多様な教育・保育環境における幼児期にふさわしい生活のために』

【研究の重点】　心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための保育者の援助・環境の構成について探る

Topic 1　教育時間と預かり保育の幼児の思いのつながり 【幼稚園 ・年長】

教育時間

何を食べるのかな？

アリ実験をしよう

チーズを運んでいるのが見えるね

預かり保育の時間

ここを折るんだよ！

教育時間にアリとの関わりを楽しんでいることから、製作グッズの中に折り紙の他、モールを用意すると、年中児にアリの折り方を教え、工夫しながらアリを作る年長児の姿が見られた。

教育時間

POINT　調べたり試したりできる教材

見つけたアリを飼育ケースで育てようと取り組む子どもたち。図鑑で餌を調べ、本当に食べるのかいろいろ試してみた。巣は『アリハウス』と名付けた。

POINT　観察しやすい環境の工夫

大きなアリを見つけて意欲が高まり、巣の様子が見やすい、新しい『アリハウス』を図鑑を見ながら作った。完成した『アリハウス』で観察することで、さらにアリへの興味が深まった。

POINT　自分たちで考えたり教え合ったりできる場

みんなが目にしやすい『ホール』に作ったアリを掲示すると、登園してきた友達が加わり、巣や花を描くなど、自分たちで考えながらアリの世界をどんどんつくっていった。

●研究アドバイザーから　札幌国際大学 人文学部 心理学科こども心理専攻　教授 木村 彰子 氏

乳幼児期の育ちは小学校以降の教育の土台になります。「自分で考えたことを実現できた」経験が土台になった子どもと、「大人に教えられて活動することが多かった」経験が土台になった子どもとでは、これからの時代を生き抜いていく上で大きな違いが出てくるでしょう。多少のことでは揺らがないしっかりとした土台を育むためには「自分の思いをもって遊び込む」経験が大切です。その経験が小学校に行った後も大きな自信になっていきます。

それは、「(教育課程に係る)教育時間」と「朝や午後から夕方にかけて行う教育活動の時間」でも同様です。両者の遊びの内容そのものは直接つながっていなくても、子どもの思いや育ちは当然つながっています。それぞれの時間に関わる職員間で子どもの様子や育ちを伝え合い、「今はこの子のここを大事にしたい！」といった共通の願いをしっかりもって安心できる生活づくりをしていきましょう。

Topic 2　1日を通して幼児期にふさわしい生活づくり【認定こども園・異年齢】

いつもはホールで使っている積木を保育室へ運び、朝の時間だけでなく何度も作り変えることができる、または取っておいていつでも続きができるようにした。積木の重ね方を工夫し、何度も挑戦する姿につながり、遊びへの思い入れが深まっていった。

マルチパネは様々な形のパーツがあり、積木とは違った組み立て方を楽しむことができた。何度もマルチパネを再構成しながら、やりたいことが続いていった。

行事に向けた取組の中で年長組のバルーンの遊びを目にしていた年下の子どもたち。「すごい」「やってみたい」と憧れをもっていたので布や人形を準備して、自分たちなりに再現を楽しめるようにした。

POINT　一人一人の感情、思いを捉えて柔軟に環境を構成

POINT　何度も挑戦できる環境

POINT　異年齢から刺激を受けた遊びを再現できる柔軟な援助や環境の構成

朝、夕方等、異年齢の保育の時間の様子

教育時間

わかったこと	心を動かす	思いをもって	遊び込む
	●「できた」の積み重ねが次の「やってみたい」につながる。 ●異年齢が共に生活する中で、互いに認められて「うれしい」気持ちや、憧れて「やってみたい」気持ちをもつ経験は、「もっと」と心が動いていくことにつながる。	●子どもの興味や関心が、どこにあるかを職員間で共有することが大切。教育時間と保育時間で連携を図り、思いをつなげる援助や環境の構成を行うことで、思いをもって遊ぶ姿となる。	●『積木はホールで遊ぶもの』などのこれまでの使い方に捉われず、子どもたちの育ちを見通した柔軟な環境を構成することで遊びの継続や広がりにつながる。